編集後記

第66巻2号をお届けいたします．本号は，東京・千駄木の日本医科大学で開催予定の第121回学術大会の抄録号です．日本医科大学の前身・済生学舎の創立者である長谷川泰にちなんで，シンポジウム「医療史から済生救民を考える―長谷川泰をめぐる人々―」も予定されています．ご報告の演題・抄録からもわかるように，長谷川は教育者として医師の育成に尽力するとともに，後藤新平の後任として1898（明治31）年から1902（明治35）年まで内務省衛生局長も務め防疫行政を主導しました．防疫が国家的急務であった長谷川の生きた時代からわれわれは何を学び，どうすればそれを広く現代の社会のなかで共有しつつ思考・議論の糧とすることができるのか．久しく日常的な政策課題として防疫の優先順位がかつてほど高くはなくなっていた現代において，瞬く間に浮上してきた新型コロナウイルス感染症の防疫問題に際し，あらためて考えさせられます．

2020年5月30日・31日に開催される予定だった学術大会は，残念ながら12月19日・20日に延期となりました．この稿を書いている4月上旬において，感染症流行の先行きは予断を許さない状況です．防疫・治療の前線での医療者の方々のご尽力には頭が下がります．なんとか事態が好転することを願うばかりです．

（永島　　剛）